

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1271202978		
法人名	株式会社 ヘルシーサービス		
事業所名	グループホームガーデンコート矢切		
所在地	千葉県松戸市下矢切99-10		
自己評価作成日	平成21年11月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12 みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成21年12月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「お客様に気持ちよく、安心して安全な生活を送って頂けるようなホームを目指します」をホームのモットーとし、利用者様は気持ち良く安全に且つ安心して時間を過ごせる場所である。事をスタッフ一同誠意の有る意識、態度を心掛けていきたいと考えております。且つ日々実践していくよう皆で意識付けしております。ご家族、地域の方々にも気軽に「チャイムを押せる」ホームとしてガーデンコート内外皆元気良「あいさつ」と「笑顔」だけは絶やさずしようという青言葉でスタッフ一丸となって日々お世話に励んでおります。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「お客様に気持ちよく、安心して安全な生活を送って頂けるようなホームを目指します」をホームのモットーとし、利用者が気持ち良く安全に且つ安心して時間を過ごす事ができるよう、職員が一丸となり取り組まれている。日々の支援においても、この一年間、職員の入れ替わりも少ない事もあり、利用者とも馴染みの関係が築かれている。地域との交流については、地域回覧板より情報を収集し、地域の会食会に定期的に参加をするほか、地域防災訓練にも職員が参加するなど、地域行事へ積極的な参加を図り、昨年度と比較し、着実に成果を上げている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お客様に気持ちよく、安心して、安全な生活を送っていただけるようなホームを目指す」をモットーとして掲げている。モットーは職員間で話し合い決定し、安全なケアを目指すという思いから策定された。	ホームでは、「お客様に気持ちよく、安心して、安全な生活を送って頂けるようなホームを目指します」をモットーに掲げ、ホーム内への掲示のほか、新入職員オリエンテーション時で説明し、モットーの共有に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回の運営推進会議の他、地域の会食会やお祭りなどの参加、地域の防災訓練等に参加している。活動に参加させていただいているうちに地域の方の認知も増えてきている。	地域に根差した活動については、地域回覧板より情報を収集し、地域の会食会に定期的に参加をするほか、地域防災訓練にも職員が参加するなど、地域行事の参加により交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での報告、地域活動に参加した際などで地域密着型の認知を増やしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度のペースで開催し、ホームの運営状況や行事報告、地域活動の参加内容などを報告させていただいている。参加者の方々からも貴重なご意見を頂いている。	運営推進会議は、2ヶ月に一度定期的実施されている。会議では、利用者の状況、ホームの取り組み状況の報告のほか、今年度、食事形態変更に伴い、会議メンバーの方にも食事を摂って頂き、意見を収集するなど、サービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、地区在宅介護支援センター、保健師との連携を測る他、市の担当者とも必要において連携をとりサービスの質の向上に取り組まれている。	市の担当者との連携に関しては、運営に関する疑問点等が発生した際には、担当者と連携し対応するほか、先方から見学の要望が出た際には、柔軟に受け入れをするなど、互いに連携し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての会議を行ないスタッフの理解を深めている。転倒、転落の危険のある場合でもどのようにして身体拘束をなくした対応をするか、皆で意見交換をし、ケアプランに盛り組んでいる。	身体拘束の廃止に向けて、県が主催する、身体拘束防止に関する研修に、職員が参加し、ホーム内のミーティング時にも、研修内容を伝達し、全職員が、身体拘束による利用者への弊害に関する理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議、申し送り等で説明・啓蒙を行ない、職員のストレスが溜まらないようシフトを調整したり気晴らしの意味を込め忘年会とう行ない気分転換をおこないストレスの溜まりにくい職場環境になるよう取り組んでいる。		

グループホームガーデンコート矢切1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修や会議を受ける機会の確保や働きながらトレーニングしていく事を進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書及び、重要事項説明書を管理者により、説明を行なっております。ご家族等にはご理解とご納得頂けるまで時間をかけてご説明させて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等からの意見や要望、苦情の収集についてはホーム玄関にご意見箱を設置し意見を収集するほか運営推進会議の際や、面会時に直接伺聞き取られている。ご意見・ご要望があった際はその都度話し合い、意見の反映に努めている。	家族等が意見や要望を表出できるよう、ホーム玄関先に「意見箱」を設置している。また、面会時にも直接意見を聞き取り、家族からのニーズに迅速に対応できるよう取り組まれている。	独自のお便り等の作成により、日頃のホームの状況を定期的に報告する体制を築き、家族の方にホームの取り組みがより一層理解が深まるよう取り組まれることに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3ヶ月に1度個人面談を行い、スタッフの意見を聞く機会としている、また1ヶ月に一度ヘルパー会議を行い意見交換をおこなっている。	職員からの意見に関しては、概ね3ヶ月に一度の割合で、個人面談を実施し、職員から直接意見を聞き取っている。また、月に一度のヘルパー会議時においても意見交換し、現場からの意見を収集する仕組みを整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会などの情報があつた際はスタッフにも声かけし参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流については、法人内系列の他のホームとの連携を図りながら、先進事例等を積極的に導入し、サービスの質の向上につなげている。		

グループホームガーデンコート矢切1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時においては、利用者の方にも見学にお越し頂き、ホームの雰囲気慣れて頂いている。また、希望に応じて体験入居も可能であり、利用者が納得した上でサービスを利用出来るよう、利用者の特性に応じた対応を図っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人が安心し、納得した上でサービスを利用する為に、家族と常に連絡を取り合い情報交換をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期においては利用者の方にも見学にお越し頂き、ホームの雰囲気に慣れて頂き要望におおじて体験入居も可能であり利用者が納得した上でサービスを利用出来るよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな雰囲気を目指し、モットーでもある安心と安全生活を送っていただけるホームを目指し声掛けや家事等を共に行い明るい雰囲気作りを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画に変更があったが合った際には、その都度、家族と連絡を取り支援内容の説明、及びご家族様の意見を伺いケアプランに反映させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際はご本人が自宅でしたようしていた馴染みのあるものを持参していただいている。また、友人との電話や手紙交換がおこなえるようにしている。	利用者が馴染みの人や場との関係がホーム入居後においても継続できるよう、これまで使い慣れた馴染み品の持参のほか、交友関係の継続など、入居後においても関係が途切れないよう取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間などを利用し、利用者様同士会話が持てるよう支援している。3ヶ月に1度の行事は利用者様全員が顔を合わせ談笑できるようにしている。孤立してしまいがちな利用者様に対しては居室に伺うなど寂しさを与えないよう努めている		

グループホームガーデンコート矢切1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も定期的にご連絡させて頂き、お付き合いを継続するよう心掛けております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや希望の収集については、日常会話の中から聞き取るほか、意思疎通が困難な方に対しては行動から察知するなどし、利用者様の意見が尊重した支援ができるよう努めている。日々の申し送り、会議等で共有している	利用者の思いや意向の把握については、日常会話の中から聞き取るほか、意思疎通が困難な方に対しては行動から察知するなどし、利用者本位のケアの実践に取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプラン作成時には、アセスメントシートを作成し、日々の申し送りやヘルパー会議の際に共有化を測っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員によるご利用者の様子観察を計画作成担当者が報告を受けて把握するように努めております。状況に応じて計画作成担当者が直接様子観察しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時にはアセスメントシートを作成し、利用者様状況を把握すると共に、ご家族、職員の意見を取り入れた上で作成している。ケース検討も定期的におこなわれておりそれぞれの意見の取り組まれたプランが作成されている	ケアプランの作成に関しては、月に一度のヘルパー会議時に検討会を開き、職員からの意見を収集するほか、本人、家族の要望を踏まえた上で、一人ひとりの状況に応じた目標を設定し、日々のケアに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人台帳を用いて日々の状態を記録している。別にヘルパーノートがあり出勤の際必ず見るようになっている。それらと朝、夕の申し送りで、現場間、間接要員の情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化等があった際にはその都度ご家族と連絡をとり、職員を交えたケース検討会議をおこないケアプランの再作成、または追加事項としてその都度対応している。		

グループホームガーデンコート矢切1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園を散歩に利用したり、町内祭りの参加、近隣で行なわれる会食会への参加をしている。参加者は職員で選定し皆が参加できるようになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度の定期往診に加え、体調の変化があった場合にはすぐに主治医と連絡のとれる体制になっている。なお臨時往診があった際はその都度家族に連絡を行なっている。	利用者が適切な医療を受けられるように、提携先の医療機関による往診が週に一度実施される。担当医とは日頃から連携を図り、緊急時においても緊急往診の実施等、迅速な対応が図れるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現状は、提携医療機関との連携を中心に考えております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった際には、入院先の病院と連絡をとり介護サマリー、おもに個人記録を用いて日常の様子を申し送っている。また入院が長引いた際などは定期的に病院に伺いナース等から状況確認を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化または終末期になりうる状況の際は、ご家族、主治医と密に連携を図り、援助計画を基に情報を共有している。職員間に関しても情報を共有し、ご家族、主治医、職員間において統一したケアを徹底している。	重度化した場合や終末期の対応に関しては、家族主治医と連携を図り、早い段階から情報を共有し、対応する事としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいている。マニュアルは各フロアに設置されておりすぐに関覧可能となっている。なお緊急連絡先も添付しておりマニュアルにそった対応が出来るよう会議等で確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会議にて防災説明を行ない消火器の位置、避難経路の確認。災害時の動きなどの説明を行なっている。また緊急時の避難場所を設定市日々の散歩コースに取り入れている。また地区の防災訓練に参加し地域との協力体制を築いている。	突発的な災害に備え、ホーム内のミーティングで、避難経路や消化器の位置等、職員に周知し、安全に避難できる方法を訓練を通じ身につけている。また、災害備蓄品についてもホーム内に保管されている。	ミーティング等において、避難場所を再度周知し、全職員間で避難場所の統一が図られることに期待したい。

グループホームガーデンコート矢切1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ヘルパー会議にてマナー研修を行ない、職員の意識を高めている。日々の申し送り、定期的に会議で啓蒙を行ない意識付けている。	利用者に対し不適切な対応にならないよう、言葉かけにおいては、新人のオリエンテーション時や内部でのマナー研修を通じ、全職員が意識できるよう努め、利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう取り組まれている。	今後においては、ホーム内に個人情報利用目的・個人情報保護方針に関して掲示されることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様を尊重し、ダメと言わないケアを心がけている。答えられない要望についてはダメと言わず別の提案をするなどして対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの生活では、極力利用者の意思を尊重し、起床、入床な1人一人のペースに合わせて対応されている。無理強いすることなく、利用者様の意見を尊重した支援が日々図られている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の気に入ったものが着れるよう入浴準備の際、自立の方は自立で行なっただき、介助が必要な方も出来る限り一緒に選ぶように支援している。また入居の際には自宅の馴染みのあるものを持ってきていた		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業では、調理、後片付けにおいても職員と共に実施されている。また食事中は職員も食卓を囲み和やかな雰囲気になるよう努めている。	食事の準備に関しては、利用者の状況に応じ、主体的に取り組めるよう、職員からも声をかけ対応している。また、地域で開催される食事会に参加するなど、食事を楽しむための工夫も図られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が一日を通じて必要量摂取できるように、食事形態については、状況に応じて刻み、とろみで対応するほか、水分量についても一日1000cc摂取できるように促している。水分摂取が困難な方はゼリーを		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立の方には歯磨きを促し、自力で行なえない方には口腔ケアを行なっている。なにか異常があれば週一回の訪問歯科の際に依頼し治療を行なっている。		

グループホームガーデンコート矢切1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況の変化があった際にはその都度、ケース検討会議を行ない、職員家族を交えアセスメント結果を基に検討し、どこまで自立できるか話し合いケアプランにもりこんでいる。	利用者一人ひとりの排泄パターンに関しては、利用者個別の生活記録に、排泄状況を記載し、職員間で把握している。また、ケアプランにも排泄の自立に向けた内容を入れ、自立に向けた支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が少ない利用者様に対しては、ゼリー等で水分を補っている。また排便チェック表を使用し便秘や下痢などがないか日々チェックを行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については、週2回入浴できるよう、利用者様の希望を尊重し、希望やタイミングに合わせて入浴できるように対応されている。入浴拒否者に対しては無理強いせず、清拭対応や別の日に変更するなどし、対応している。	入浴は、利用者の希望やタイミングに合わせ、週に2回入浴できるよう支援されている。入浴中は職員が介助に入り、安全に入浴できるよう配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や入床は基本的に本人の意思を尊重し行なっている。意思表示が出来ない方に対しては日中でも疲れが見えれば入床していただき、起床介助なども朝食時間が決まっていない為様子を見ながら行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の追加、変更があった場合は、往診記録を用いて日々の申し送り、ヘルパーノートに添付し閲覧可能としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの特技に合わせて、役割を持って頂き、張り合いのある生活を送れるよう支援されている。また生活暦を取り入れた会話をするなど工夫を図り対応されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は積極的に散歩に出かけている。会食会や行事などでの外出も行なわれている。	天候の良い日には、近隣へ散歩に出かけるほか、今年度は、地域主催の外食会に出かける機会も増え、前年度と比較し、戸外での活動が充実されている。	



グループホームガーデンコート矢切1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	3万円のおこずかいをご家族からお預かりしており本人の要望、及び必要に応じてご家族の同意の元日々の買い物等行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に電話は事務所にて自由に行なっている。手紙に関してはホームに届いたものを本人にお渡しし、返信の要望があった際は散歩の際などに一緒に出しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中利用者様が多く過ぐすりビングにおいては、季節の花を飾るほか、写真の掲載など居心地良く過ごせるよう工夫している。転倒の危険になるような物は置かないなど安全面でも配慮されている。	利用者が集うリビングスペースには、行事の際の写真の掲載や季節に応じた花を飾るなど、居心地良く生活できる空間にしている。また、玄関先のアプローチに花を植えるなど、暖かな雰囲気が出ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員間で会議等で席順を考え孤立しないような環境設定をしている。また、問題が生じた際は、再度議題に出し柔軟な対応が行なわれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においては、これまで使用されていた家具などを持ち込んでいただき自分の部屋としてくつろげるよう配慮されている。ご家族、ご本人と話し合いながら居心地良く過ごせる空間となるよう取り組まれている。	居室内においては、これまで使い慣れた馴染みのものの持ち込みを可能とするほか、部屋のレイアウトについても、本人、家族の意向を尊重し、居室内でも安心して生活できるよう取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームでの生活は、極力利用者の意思を尊重し、起床、就寝時間など1人ひとりのペースに合わせて対応されている。決して無理強いすることが無く、利用者のペースを尊重した支援が日々図られている。		